

a 学校教育目標	心豊かに かしく たくましく	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 【ビジョン】(自校の将来像) 志を抱き、自らその実現に向けて考え、行動できる未来の創り手の育成 組織の一員としての自覚をもち、新たな教育活動の創造に向け、協働できる教職員が創る学校
----------	----------------	----------------------	--

評価計画						自己評価					改善方針		学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10 月	2 月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント	
						h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ		
確かな学力	主体的で探究的に学ぶ児童を育成する。	基礎・基本の学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成を図る。	・授業改善 基礎・基本の学力の定着 ・帯タイムや家庭学習による繰り返し学習の徹底 ・漢字検定・計算検定テスト(学期毎)の取組	・算数科の単元テスト(確認テストも含む) 知識・技能 到達率70%未満 思考・判断・表現 到達率70%未満	0人	0人		100	A	・確認テストを含めて、全児童が到達率70%以上を達成した。一方、確認テストを含めない場合、達率70%未満の児童が、「知識・技能」4人、「思考・判断・表現」6人いる。 ・漢字検定90点以上の児童の割合83%、計算検定90点以上の児童の割合100%であった。児童によって、取組姿勢に差がある。 ・R80をシェアしている児童の割合は100%近くになっているが、すべての児童が「できている」と言い切れていない。 ・児童アンケートの肯定的評価は、指標4項目で目標値を達成した。特に、「今日の学習のまとめを自分の言葉で書こうしたり、学習の振り返りを書いたりしています【R80】」、「算数の問題を解くときは、ノート、ホワイトボード、クロームブック、実物など、何を使うか選んでいます。」の2項目で肯定的評価が96%だった。	・引き続き、確認テストで積み残しがないようにしていく。また、ぐんぐんタイムを活用し、各単元の復習を継続して行っていく。 ・漢字検定の問題数や出題方法、実施時期を見直し、児童が粘り強く取り組めるようにしていく。 ・授業の残り5分でR80の記入と、シェアを確実に行っていく。 ・児童アンケート「話し合いでは、考え方の同じところやちがうところを見つけたり、見つけたことからもういい考え方やきまりがないか考えたりしています。」に課題があるので、算数の授業内で、教師の発問や板書の整理、話し合いの焦点化を行うことで、効率的なやり方規や則性を見つけている児童の割合を増やす。	○			○「漢字検定」「計算検定」「確認テスト」など、継続した粘り強い取り組みにより、目標値を達成しているのは評価できる。引き続き自己の成長が分かるよう取り組んでいただきたい。 ○授業中の姿で、児童同士が意見を活発に交流していた。主体的な学びになるよう引き続き学び合う集団づくりにも取り組んでいただきたい。 ●個別支援が必要な児童への取組を行い、すべての児童の基礎学力の補償を行っていただきたい。そのための複数で支援すること、実施方法、実施時期の見直しによるスモールステップでの取組は、現状から改善案を考えて実践されているのでよい。 ●例えになるが、漢字の筆順など、漢字を書きさえすればよい結果論にしていけるのではなく、筆順のよさや意義について丁寧に指導していただきたい。	
				・漢字検定・計算検定テスト合格90点以上(再テストも含む)	90%	91	101	A								
				・R80を毎時間シェアしている児童の割合【R80】	100%	96	96	B								
				・児童アンケート(4項目)の肯定的評価	80%以上	94	118	A								
豊かな心・健やかな体	心も体もたくましい児童を育成する。	認め合い支え合い、自ら伸びる、ともに伸びる児童を育成する。	自分たちで決めた目標の達成に向けて粘り強く取り組むことを通して、自己有用感や集団の意識を向上させる。	・前と比べて良くなったと感じている児童の割合	80%	97.9%		122.3%	A	・前の自分と比べてよくなったと感じている児童の割合は97.9%で、目標を大幅に達成することができた。保護者アンケートでも、「わが子は自分のよい所を知っている」という質問に対して、95.7%の保護者が肯定的な回答をした。	・成長の実を通して、自分や友達の良いところを見つけているので、自己肯定感が高い児童が多い。校内掲示や放送を引き続き実践し、認め合える集団づくりを目指す。	○			○児童会活動の活性化により、3年生以上の児童の学校貢献意識は100%、1・2年生の参加・協力の意識92.3%はとても素晴らしい成果である。高い数値を維持することは大変であるが、児童発信のアイデアが実現できるよう、教職員で協力していただき、すべての児童の自己肯定感・自己有用感を高めていただきたい。 ●体を動かすことが好きな児童が数値は達成しているが固定化している現状がある。遊びを通して体を動かす機会を更に設けていきたい。	
				・体と動かすのが好きと答えた児童の割合	80%	89.5%		111.8%	A	・「体を動かすことが好き」という質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合は89.5%であった。同じ児童が否定的な回答をしているので、運動の楽しさが得られるような取り組みを引き続き実践していく。	・6月に健康委員会による健康タイムで「ダンス」や「ドッジボール」をし、みんなで楽しく運動をすることができた。運動が苦手な児童も参加できるよう、選択肢を増やす等工夫して、少しでも体を動かす経験をさせる。					
				・【3年生以上】児童会活動を通して、学校をよりよくすることに貢献できたと思う児童の割合【1・2年生】自ら進んで協力し、楽しみながら、わくわく遊びや委員会の取り組みに参加できた児童の割合	80%	100%		125%	A	・3年生以上に行った「児童会活動を通して、学校をよりよくすることに貢献できたと思う児童の割合」は100%で、3年生以上の全員が主体的に児童会活動に取り組んでいると思われる。 ・1・2年生に質問した「自ら進んで協力し、楽しみながら、わくわく遊びや委員会の取り組みに参加できた」と回答した割合は92.3%で、多くの児童が楽しみながら、活動に参加できている。	・1学期は、児童会による「わくわく遊び」、図書委員会による「読み聞かせ」や「読書マラソン」、環境委員会による「花の絵コンテスト」「くつそろえ」など、たくさんの取り組みを企画し、運営できた。活動の中で、学校をよりよくするためにはどうしたらよいか、自分たちで考え、実践できたことが、今回のアンケートの結果につながった。 ・多くの児童が楽しくわくわく遊びや委員会の取り組みに参加してくれているので、それを維持していく。					
					80%	92.3%		115.3%	A							
信頼される学校	学校と保護者・地域及び関係機関との双方向の信頼関係を構築する。	コミュニティ・スクールを核とした地域との協働を通して地域が好きと実感できる児童を育成し、地域に開かれた信頼される学校の構築を図る。	働き方改革の推進 校務支援システム等、ICT機器を活用し、 ・スケジュール管理の徹底を図る。 ・各部、各委員会の組織的な取組を進める。 ・PDCAサイクルを充実させる。 学校運営協議会を実働させ、地域教材を教育課程に位置付け、児童に地域の良さを実感させる活動や学習を進める。 積極的な情報発信 ・ICT機器を活用して、学校だより、HP、学級だより等で積極的に学校や学級の様子を発信する。	・定時退校日の完全実施。 ・年間を通して勤務時間外の上限時間を超えない。 (月35時間以内・年間360時間以内)	100%	定時退校100%		100%	A	・毎週水曜日の定時退校日の完全実施を行うことができた。職員は見通しを持って業務を行うことができている。年間授業時数1086時間を目安に、授業時数の調整を行い、時間外勤務では、月35時間以内の目標より大きく下回り、月30時間を目指すこともできている。 ・生活科や総合的な学習の時間に、地域教材を活用した学習を位置づけ実践した結果、保護者アンケート「わが子が地域のことを学習したり、地域の方と一緒に活動したりするのを知っている」の肯定的評価が94.3%であった。目標値を上回っている。 ・ICT機器を活用した情報発信や、すぐーるによる学級だより・学校だよりの配信を定期的に行った結果、保護者アンケート「学校だより、学級だより、すぐーる等で学校・学級の様子が伝わった」の肯定的評価は99.6%であり、目標値を上回っている。	・学校衛生委員会を活用し、働き方改革を行っていく。予定を見る化し、進捗状況を確認しつつ、お互いが声を掛け合えるようにし、職務をよりしやすい状況を作っていく。 ・学校運営協議会で協議した内容を、学習に取り入れ、引き続き児童に地域の良さを実感させる学習を進めていく。 ・地域での学習をする際は、積極的に学級だよりや学校だより等で情報発信したり、児童が学習したことを価値づけたりするなどし、家庭でも地域学習について話題がでるような手立てを講じ、地域に開かれた学校づくりをしていく。	○			○学校運営協議会で話し合った地域活動について計画的に実施されている。地域のことを好きな児童を育てていただきたい。 ●地域学習の伝統として例年行っていることが、地域の方の高齢化によって例年通り実施することができず、変革していかないといけない時期になってきている。そこで、地域の町内会との協議が必要である。学校運営協議員としても、できることをやっていくので、引き続き、地域と連携していつてほしい。	

【j: 自己評価 評価】

A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

【l: 学校関係者評価 評価】

イ: 自己評価は適正である。 ロ: 自己評価は適正でない。
ハ: 分からない。